

知財部門におけるAI導入の8段階：業務別・最適レベルの活用ガイド

知財部門の目標は単に高いAIレベルを目指すことではなく、業務のリスクとAIの自律度を照らし合わせ、最適な「レベル・ポートフォリオ」を構築することです。分析はAIで高度化しつつ、権利や法的地位に影響する最終判断は人間が担う「二層構造」が基本原則となります。

業務の種類に応じた推奨レベルと設計思想の可視化



安全な導入のための鉄則



「分析の自律」と「意思決定」の分離
権利放棄や提訴などの不可逆な決定権限は、必ず人間に留保する。



リスクベースのガバナンス
誤りの影響度と可逆性を評価し、機密情報の保護環境を厳格に定める。



段階的なロードマップ
まずレベル3を標準形とし、成功体験を積んでから高度な自動化へ進む。